番町

第　10　号　平成24年10月
発　行　番町小学校同窓会
〒102-0085　千代田区六番町８
東京都千代田区立番町小学校内
TEL 080-3012-1001　FAX (03)3263-3731
郵便振替口座　00160－7－352085
編　集　番町小学校同窓会事務局
印　刷　株式会社　精　興　社

東日本大震災により被害を受けた方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を祈念致しております。

夏の名残のような暑さがいつまでも続いていましたが、10月の声を聞いた途端に長袖の上着が必要になりました。なんだか四季折々の風情と、無縁になってきたようです。会員の皆様には、如何お過ごしでしょうか。平素は、同窓会にご理解とご支援を頂き深く感謝申し上げます。

さて、平成18年から就任され、同窓会活動及び創立140周年記念事業にご尽力下さった新井巌会長が退任し、今年度より岩瀬裕全氏が会長に就任されました。よろしくお願い致します。なお、新井会長は、黒川元会長、草刈協賛会会長、有馬前校長先生と共に顧問として、今後も同窓会に助言を下さる予定です。

また、母校でも有馬守一先生が勇退され、千代田区立和泉小学校から額賀聡先生をお迎えしました。新旧の校長先生のご挨拶もご紹介致します。

ご挨拶

同窓会会長　岩瀬裕全

本年度、同窓会長に選任頂きました昭和36年度卒業の岩瀬裕全です。よろしくお願い致します。

＜今期の方針＞

同窓会が、会員同士と学校、生徒、保護者や地元との親睦を中心に活動することについては従来と何ら変わりませんが、今期、下記の重点課題を掲げることに致しました。

１）会員が同窓会名簿を柔軟に活用できるような新運用ルールを作る
２）学年幹事と理事の役割重複を減らし、学年幹事の負担を軽減する
３）番町小学校が「末永く存続する為」に必要な基盤の強化と地道な活動を行う

＜同窓会名簿の大きな課題／番町特有の難しさ＞

番町の名簿の整備の難しさは、一般の想像をはるかに超えています。まず、母集団の規模がケタ違いで、明治４年以降の卒業生は２万を超えています。しかし、40年前、100周年の創立記念事業実行委員会と同窓会が卒業生名簿の作成をした後、千代田区の実施した『公共施設適正配置構想』など様々な要因で組織だった名簿整備を行えなかった経緯がありました。その弊害は大きく、同窓会が平成５年に新装再出発してから整備している現在の名簿にも、本人の卒業時の住所か、それも不明となって名前だけが並んでいる学年が多数あります。それでも、140年分の同窓生のお名前を正確に把握するには労力を要しました。

以上のような背景には、番町が一般の小学校のように同窓生自身や実家の大半が地元ではないため、卒業後の現状追跡が極めて難しい、と言う事情があるものと思います。

＜名簿の現状＞

創立120周年の際、名簿を担当した現副会長の井上さん（25年度）が、紙ベースであった100周年時の名簿とその後の20年の卒業生名簿を全てデータ化しました。それを元に事務局が、41年度の中村さんを中心に20年間努力を続けた結果、昭和元年から現在まで7,200名強の連絡先を確認していますが、前述のように卒業時の住所のままという同窓生も多くいます。また、年次やクラスによってその把握状況にも大きな濃淡があります。名簿の修正は学年幹事を通じて行っていますが、昭和13年度までの学年では、幹事が亡くなったり高齢で同期会を開かなくなったりで学年幹事がいないところもあります。それ以降では、幹事が不

明あるいはお名前が判っていても同窓会と接触がないという学年が25前後あります。また、今年、卒業30周年を記念して同期会を行った56年度のように、卒業後にクラス会・同期会を開いていない学年も多くあるようです。

残念ながら近頃は、社会全般で母校、同窓会といったものへの帰属意識が薄いようです。また、番町の卒業生にしても全員が番町好きとも限りません。私は再生同窓会立上当時、上級生や下級生の100人以上に電話を掛けましたが、自分は番町とは関係無い、関係を持ちたくない、何で私の承諾なしに名簿に載せた等、怒る方も少数ですがいらっしゃいました。中には、クラス名簿に載っていても、電話口で私は卒業生ではない、と力まれる方もいらっしゃいました。

＜メリットは大きいはず＞

私の同期には、各方面で活躍している方々が沢山いらっしゃいます。世間的な毀誉褒貶は関係なしに、魅力的な方が大勢います。その多くが、名簿を整備した結果集まるようになりました。しかし、私の期だけが特別な筈はありません。番町の場合、同窓会のメリットが引き出せれば、横にも縦にもその効果は無限です。先輩・後輩とも人材の宝庫です。参加のメリットが増えれば、自然に名簿の空白が埋まる機会が増え、名簿が増えれば益々メリットが増すものと思います。

＜名簿情報のセキュリティー＞

同窓会が名簿の整備を始めた頃、個人情報保護法が制定されましたが、番町の名簿のセキュリティーは他に類を見ないほど厳重です。情報漏洩等の不祥事は、一切ありません。会長であっても、名簿にアクセスすることは出来ません。一方、何で自由に教えてくれないのか、とのクレームがあるのも事実です。また、地震火災等を考えると、情報の分散保管等も考える必要があります。

名簿のセキュリティーを堅持し、且つ、会員同士の利便性を高め、更新情報の求心性を高めると言う相矛盾する複数の目的を同時に満足させる連立方程式を解くのは至難の業ですが、何とか現状にあった解決を模索したいと思います。

＜会則の変更と番町の末永い存続？＞

現在の会則は歴史的経緯を反映したものですが、学年幹事と理事の重複が多いことについては批判が多く、見直しをしたいと思います。また会員の皆さんの中には、何故ことさら改めて「番町の存続」が重点課題になるのかと不思議に思う方が少なくないのではないでしょうか。これらの点についてはとても大事なことなので、皆さんに十分ご説明したいと思いますが、今回は紙面の制約で出来ません。別の機会に是非お話させて頂きたいと思います。

黒川前々会長が幅広い年次ギャップの調整に心を砕かれ、新井前会長が地域との融和を推進されたのと異なり、私はただ偶然自宅が近く、番町への強い思い入れのみで会長に選任されました。微力ですが、同窓会の基盤強化に最善を尽くしたいと思います。名簿、会則に拘わらず、ご意見のある方、何かやってみたいと思われる方は、大歓迎です。是非、議論や活動に参加して下さい。今後、皆様のご意見を最大限吸収して、役員全員としっかり歩きながら考えて行きたいと思います。

退任のご挨拶

前会長　新井　巌

昨年度まで、同窓会会長を務めておりました新井巌です。昨年12月の皇太子殿下をお迎えしての創立140周年記念行事も滞りなく挙行され、微力ではありましたが私の任務もなんとか全うすることができました。これも偏に同窓会会員の皆さまをはじめ、関係各位のご尽力の賜と深く感謝申し上げる次第です。規約上は、すでに一昨年度で５年の任期が切れるところではありましたが、この周年行事のために特例で１年延長させていただき、都合６年間会長職を務めさせていただいたことになります。本年度の改選期において私は会長職を辞し、今まで副会長職を意欲的に取り組まれてこられた岩瀬裕全さんにバトンタッチさせていただきました。

岩瀬さんは、若くしかも実行力、見識ともに備えられた方であり、来るべき150周年という大きな節目に至る道筋を付けていただくには最適任者であると存じます。現状の番町小学校の同窓会は、多くの皆さまのご努力によって現在の形になってまいりましたが、名簿の整理や管理等においては長い間の空白の時期もあり、これから整備していかなくてはならないことは山積しております。私の任期には、こうした整備の必要性を十分に認識しながらも、当面の創立140周年行事に集中せざるを得ませんでした。今後、岩瀬会長になられてからは、必ずやこれらの山積した諸問題に

校長室に創立140周年記念式典時の皇太子殿下のお言葉を書いた額が掛けられました。筆者は在校生の保護者、高井傳里さんです。

ついて解決策を見いだしていただけるものと確信しております。

昨年、私たちは創立140周年において、その歴史と伝統を寿ぎました。同窓生の一人として、私自身もこれらのことを誇らしく感じました。しかし、省みるにあの創立記念行事は、私たち関係者だけではなく、その周囲の多くの方々に見守られて挙行できたということを忘れてはなりません。私たちは、番町小学校の歴史の長さに頼り、徒に伝統校としての矜持のみを挙げ連ねることは厳に慎むべきであると存じます。多くの人たちに支えられている番町小学校の現在の姿を率直に見つめ、こうした伝統を維持するための不断の努力こそが、真の意味での伝統校の誇りとなるものではないでしょうか。

在任中に寄せられました数々のご交誼に感謝申し上げるとともに、これからの番町小学校および同窓会の弥栄を祈念して、退任の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

脈々たる番町

番町小学校長　額賀　聡

校舎２階の南西角に位置する教室、ここが私の番町小学校担任としてスタートした記念すべき場所です。当時は５年１組の教室でした。今年の４月に着任してすぐに校舎内外を巡回した際、暫くその場にとどまってしまいました。ここの壁にはあの掲示物、そこには学級のめあて表示、そうそう自書した「先憂後楽」はここに掲げていた等々、当時の子供たちの姿とともに数々の光景が蘇ってきました。同時に、生活指導主任として毎日、早朝と夕刻の指導を中心に全校の子供たちと関われたことが思い出されます。教師として、番町にて育てていただいた多くの思い出が、脳裏に鮮やかに再生されました。

教頭時代には、夏季休業中に青森県十和田湖奥入瀬近くにある蔦温泉のご主人が、歌人「大町桂月」が番町に通っていたのを確かめたいと来校されたこともありました。蔦温泉は、晩年の大町桂月がこよなく愛し居住した場所です。敷地にある池の正面には桂月の歌碑も建っています。私の義父母の住まう青森には毎夏顔を出し、蔦温泉へは足繁く通っていたものですから、何か不思議な思いを抱き番町の縁を感じました。同窓会事務局長氏のご快諾を得て「創立百周年記念・同窓会名簿」を調べると、明治15年（前期）高等科卒業（男）のページに大町芳衛（桂月の本名）の名前を見つけました。ご主人はたいそうお喜びになって、番町小と桂月、蔦温泉の話に花が咲いたのを覚えています。

先日、今年度の番町子ども会が晴天のもと行われました。子ども会会長は前同窓会長の新井巌様です。愛育会の方々の見事な進行と同窓会ブースをはじめ各町会や地域、消防団の方々等、大勢の皆様によるお力添えにより、子供たちにとって素晴らしいひと時となりました。とくに有難かったのは、同窓会諸氏が各ブースにおられたことです。若手の卒業生とも久しぶりに会え、脈々という番町の気風を実感いたしました。

創立141年目にあたる今年、番町小学校経営方針には「歴史・伝統を繋ぐ、同窓会との緊密な連携の実現」を掲げています。創立記念日（12月４日）を核に据え、番町の歴史・伝統を紡いでいく日常的な取組を工夫して参ります。そして、150、160年と脈々と力強く刻まれる番町の魂を、学校職員は一枚岩にて子供たちに伝えていこうと決意しております。

同窓会長・岩瀬裕全様をはじめ、同窓会の皆様方には変わらぬお導きを賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

小学校教育の源流として

前番町小学校長　有馬　守一

定年退職してから、はや半年が過ぎました。現在は千代田区立教育研究所の所員として、若年教員の指導や学校運営への支援等に携わる日々を過ごしています。番町小学校にも度々訪れる機会があるのですが、懐かしそうに駆け寄る子供たちや、以前と変わりなく迎えてくれる職員の姿に、つい我が家に帰ったような気になってしまいます。私の在校４年間の中での最大課題は、言うまでもなく創立140周年記念式典への対応でした。

着任当初は、平成５年に改正された学校設置条例の下、「創立140周年」を謳うことさえはばかられる状況でしたから、皇室をお招きしての式典実施という構想は、針の穴にラクダを通すような途方もない試みに思われました。しかし、その準備は着任前から進められており、同窓会や保護者・地域の方々の式典復活への深い思いに触れるたびに、学校も命がけで取り組まなければと決意を新たにしたことを思い出します。式典へのご臨席依頼や打ち合わせで宮内庁を訪れた際に、度々質されたことがあります。「130周年式典に臨席依頼がなかったのは何故か？」という問いかけです。ご承知のように“公適配”が進捗する中、式典の実施自体が困難な状況だったわけですが、その空白のために、皇太子・同妃両殿下は他校の130周年式典にご臨席されることとなり、過去５回の本校式典の継続性が疑われる結果となったことは想像に難くありません。しかし、この宮内庁との応答の中で、新たな発見もありました。皇室の側にも10年に１度は小学校教育を労い、励ましたいという思いがあり、それは源流となった小学校において継続的に行うことが望ましいという意向を、ある程度確認できたことです。その趣旨は、今回の皇太子殿下の「おことば」の「これからの小学校教育の発展と充実のために…」というくだりにも表れています。そして、今後の番町小学校の10年ごとの記念式典は、千代田区や東京都の枠を超え、日本の小学校全体を代表して、皇室から労いや祝福を賜るものであり、その役目はこれからも、本校が担い続けていくべきものであると考えられるのです。

さて、記念式典の準備が軌道に乗り始めた後も危機がありました。その一つが、東日本大震災の発生です。天皇皇后両陛下をはじめ皇室の方々が、数カ月にわたり被災地を慰問されたのは記憶に新しいところです。準備会でも、その年のうちの式典実施は難しいのではないかと、挙行日時を遅らせた代替案を考えた時期がありました。

今思えば、こうした様々な困難（言い尽くせないのが残念ですが）を乗り越え、無事に記念式典を実現できたことが奇跡のように感じられます。この大事業を成し遂げた番町小学校同窓会はじめ関係の皆様の熱意とご尽力に改めて、心からの感謝と敬意を捧げます。

第８号は同窓生が在校した頃の周年行事の思い出、第９号は創立140周年記念式典や記念総会の様子を特集しました。今号は、それに続いて周年行事の頃在職した先生方にお願いして、その頃の思い出を書いて頂きました。

番町小学校とその頃の事

学習院名誉教授　近田　廣司

昭和13年は松、竹、梅、桜、の一学年４組、私の受け持った桜組は64名で教室一杯の状態でした。児童の約半数が、他区から麹町区内の知り合いの家庭に寄留していました。日本のNO.1の番町小学校に憧れていたかがよくわかります。

桜組の児童の中に故市原正士君（元同窓会長）や故藤岡貞雄君（元同窓会長）等が居りました。その頃、倒立したまま校庭を一周する児童が桜組に５人もいた事は驚きでしたが、その中のひとりが藤岡貞雄君でした。また、桜組の卒業生の中から片手では数え切れない程の東大の卒業生がいた事も驚嘆すべき事で、教師冥利と言えましょう。市原正士君の長男が現副会長の市原俊一さんですが、創立140周年記念総会の閉会の辞も実に立派でした。

「強く、正しく、愛らしく」が私のモットーです。常に児童達に話していた事です。『何事も児童の手本としてありたい』と思って三橋体育研究所へ通い、跳び箱、空中転回、等々を学びました。

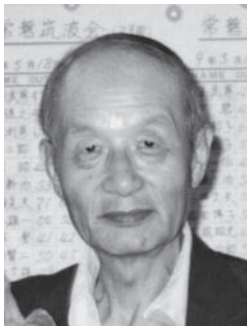
今上陛下が学習院初等科の５年生の時に、初等科に助教授として奉職しました。番町小学校と学

習院初等科と合せて1,337名の児童を教えました。紀宮清子様（秋篠宮様ご学友 黒田慶樹君夫人）、秋篠宮様、三笠宮容子様（現裏千家家元夫人）等々。創立120周年当時の文部大臣 鳩山邦夫さんもその中のひとりです。

番町小学校が皇室と密接な関係を保って今日に至った事は、番町小学校を思う多くの方々の努に寄るものと思います。天皇家が日本国民の象徴として立派に歩まれている事は、本当に嬉しいことです。

思い出すまま

森田　正隆



創立140周年の記念号に在職中の思い出との事ですので、思い出すまゝに書いてみます。

私は昭和15年３月、東京府青山師範学校（現東京学芸大学）本科第一部卒業（満20才）と同時に番町小学校に派遣され、第15代岡井二朗、第16代宮内與三郎、第17代笠倉賢助の三校長に実質８年間に亘り仕えましたが、岡井校長への印象が深いので、岡井校長について記します。

一、私が番町小に附任した当時は、東京でも珍しく校庭の一角に舎宅があり、そこに岡井校長は子供さん３人と住んでおられ、朝夕に校舎を見廻わられ、番町と共に生活されておりました。

一、男子は府立一中（現日比谷高校）、府立四中（現戸山高校）、私立では麻布、開成に入る児童が多く、女子では府立第三高女（現駒場高校）、府立第五高女（現富士高校）に入る児童が多く見られました。

一、区外通学者が多く、組の半数位は電車通いでした。

一、私の在職中の番町小は、東京で有名な進学校として名を馳せていました。当時、二、三の先生ですが５・６年を繰返し持たれ、放課後、希望者を家庭に集団で集め進学補導をされておりました。

一、国民の祝日には、岡井校長はトンガリ帽子に燕尾服（父兄から贈られたと聞いています）姿で訓辞された姿が勇壮でした。当時小学校長は、宮内庁席次で判任官待遇であった為の服です。一般の校長はモーニング姿でした。

一、余談になるかも知れませんが、年２回盆・暮には神田の宝亭（中華料理屋）を貸し切り、職員30名を招待されて中華料理を御馳走されておりまして、私共も楽しみの一つでした。

一、岡井校長は家庭的には恵まれなかったようで奥様を早くに亡くされ、娘さん二人も早くお嫁に行き、男子一人で寂しかった事もあり、番町と共に過されたように思います。

一、番町を定年退職されてからは荻窪の方に家を見付けられ、そこで晩年を過されておりました。

生き物係の思い出

小尾　昭

平成19年度「番町」第５号で廃校問題を中心に80周年頃のことを書きましたが、今回は、当時、学校で飼っていた生き物のことを思い出してみましょう。

◆ ペーコ

ペーコは猿です。愛育会の会長さんだった山地さんが、フィリッピンから持ってきて下さったカニクイザルです。ちょっと尻尾の長い目のくりくりしたかわいい子ザルでした。

早速名前を公募しましたが、学校じゅう大いに盛り上がって、やっと「ペーコ」と決まりました。

ペーコはまだ幼く、首に紐をつけて係の子が校庭を散歩させると、喜んでそばにいる子に飛びついたりしました。井上早苗さん（徳光和夫アナ夫人）も飛びつかれて怖かったことを今でも覚えているそうです。でも、優しい猿で子供に危害を加えるようなことはなく、近づいて手を伸ばすと、毛繕いをするように袖口のごみを取ってくれて、キーキーと嬉しそうに鳴き声をだしました。

南の島からきた猿ですから、寒さには気を使って、冬の間は、電球をつけて暖房にしました。

皆が大切に育てたせいか、とても長生きしました。私も、よその学校に移り、２、３年経ってからはじめて番町を訪問した時、校庭に入るとペーコが遠くから見つけて、呼ぶような大きな声をだして金網をゆすっています。近づ

くと以前のようにキーキー啼きながら毛繕いをしてくれました。毛が銀色に光って、もう、おばあさんになっていましたが、ちゃんと覚えていてくれてとても感動しました。

◆ジミー

ジミーは猫です。６年生が四谷の土手に写生に行った時、中村照夫君が拾ってきた猫です。どうしても飼うというので、学級会で話し合いました。担任だった私は無理だといったのですが、押し切られて山口校長先生にお願いに行きました。校長先生は「みんなでしっかり育てるんだよ。」とおっしゃって許してくださいました。大喜びの子供たちは寝床を作り、食器や当番表を用意しました。猫の名は、宮内達君の発案でジミーと決まりました。早速、教室の片隅に寝床が据えられて、ジミーの学校生活が始まりました。

給食のときは、机の間を歩き回って分け前をねだり、休みの日には警備員さんの食事を分けてもらって、元気に育っていきました。ある夜には、出張から帰ってこられた校長先生が、わざわざ猫の様子を見に来て下さって、ジミーが腹をすかしているようだからと、餌を食べさせて下さいました。

ある日、他の取材で来た新聞記者の目に猫の世話をする子供たちの姿が止まりました。記者は、目的の取材をそっちのけにして猫の写真を撮り、子供たちにインタビューをして、次の日の新聞にジミーの写真が大きく載りました。それからは、毎日のように新聞雑誌から取材があり、ついには、子供たちとジミーの写真がニューヨークタイムスにまで掲載されました。

全国各地からお手紙を頂きましたが、当時、戦争犯罪人として巣鴨プリズンに収容されていた方々からも、たくさんの手紙が届きました。その中に、「われわれが、子供のころにこういう動物愛護の教育を受けていたら、このような所にいることはなかったと思います。」という文がありました。

土手で猫を拾った中村君は今、ニューヨークで有名なジャズプレイヤーとして活躍しています。卒業後、ジミーを育て続けてくれた宮田泰子さんもニューヨークで芸術の仕事をしています。ジミー名づけ親で、夏休みに家で世話をしてくれた宮内君は、残念ながら今年亡くなられました。

尊いご縁に感謝

岩上　廣志

私は昭和40年、38才で番町小にお世話になりました。番町、麹町、日比谷、東大のエリートコースを狙う越境入学の全盛期でした。

前任校で、教員のまとまりにはスポーツのチームプレーが有効であることを体験してきた私は、早速バレーボールを始めました。幸い次の年には千代田区で優勝し、都の大会では準優勝に輝きました。閉会の辞で「読み書きそろばんの番町さんが……」と、つい口を滑べらせて苦笑いしていた顔が忘れられません。

〈全校ページェント（絵巻きもの）の誕生〉

子供達の自主性、連帯性も大きな高まりを見せ、自分達自身の企画立案による集会活動が芽生え、歌う集会が誕生しました。全校が一つになって初めて歌った『もみじ』に子ども達も先生方も感動しました。

集会活動は色々の分野に発展し、社会科研究全国大会では子ども達と教師の創作による全校ページェント『希望の町』が発表され、全国の先生方の大きな関心を集めました。その後、このページェントは番町の財産となり伝統化され、毎年の運動会の最後には行われるようになりました。創立100周年記念で創られた『番町の100年』もこれが土台になって生まれたものです。

〈300人の大合奏〉

私は赴任して、３・４年の音楽を担当しました。その時の３年生に、スッペ作曲『軽騎兵 序曲』を聴かせました。子ども達は大変感動し、アンコールの拍手が止みませんでした。私は、「そんなに好きなら高学年になったら自分たちでやってみたら…」と言って、授業を終えました。高学年になって卒業記念演奏曲を決める学年集会が開かれた時、真っ先に候補に挙げられ全会一致で決まったのはこの曲です。子ども達のやる気は白熱化し、夏期施設の万座では白根山の頂上まで楽器を担ぎ上げ練習したものです。

たまたまその年に、東京都小学校音楽会の出演依頼があり、受けることになりました。ところが、出演人数は50人以下と云うのです。学年が一つになり、苦労し助け合い教え合って練習してきている姿を知っている私にとっては、とても了解する事はできませんでした。しかし、最後は先生

方の支えもあり、都の英断により６年生５クラス全員300人が１人も悲しむことなく日比谷公会堂で堂々と演奏し、全員満足して終わることができました。

〈新校舎落成と創立100周年記念〉

関東大震災や戦災にも耐えてきた鉄筋の校舎が、眼の前で壊されていく悲しさ寂しさ。そして、感謝の中で真新しい校舎が落成し、そのもとで創立100周年記念行事が行われました。

私にとって番町は感動の連続でしたが、特に大妻記念講堂での100周年記念音楽会で自作のオペラ『山の声』、そして、昭和天皇・皇后両陛下の前で運動場いっぱいに繰り広げ、番町の歴史を語り体で表現し歌い上げた全校ページェント『番町の100年』の指揮は思い出の宝です。

理想は高く実践は地道に

田中　皓

昭和44年４月１日、千代田区立幼・小・中学校に勤務を始める教員の辞令伝達式があり、「新規採用、他区からの異動、区内転合わせて百数十名を代表して宣誓を述べよ。これは校長命令だ。」と遠藤校長に言われた。この日から９年間の番町小教員生活が始まった。

私は２年の担任だったので、会報８号掲載の竹川様の創立100周年の頃の思い出と重なる。11月に代表で軟式テニスの試合に黒部先生と組んで出場してアキレス腱を切り、入院３か月。足の痛みより児童、保護者、先生方に申訳ない気持ちや悔しさに駆られた。

翌年は３年担任、学級経営、学習指導に一層励んだ。６月から校舎改築、教室移動で幼稚園の一室、間もなくピロティにできた教室へと移り授業。11月に三島由紀夫事件があり、休憩時だったので市ヶ谷釣り堀まで走った。私は３か月前、あの部屋を見学していた。

４年でクラス替えしたが、4組担任、プールを壊して建てたプレハブ教室２階の一室へ。新校舎は半分完成、１～３組は入室できた。児童や保護者から、「なぜ4組は新校舎に入れないの」と不満をぶつけられ参った。この頃から記念行事が始まり、児童集会も100周年〇〇集会と呼んだ。水泳は九段小プールで実施、運動会は四谷外堀公園、遠足は全校児童でよみうりランドへ。行事主任だったので、実地踏査、電車での移動、縦割子供会の編成等教師や主事の配置など苦労した。音楽会は大妻講堂で実施。こんな年だったが、先生方も頑張って７年連続バレーボール優勝を成し遂げた。

100周年を前に小山校長から校誌の書き直しを頼まれ、毛筆で和紙に書く作業を３か月かけて記述した。３月から学校警備も始まり、４月からは屋上の雨樋まで点検などものものしい雰囲気に包まれた。

５年担任の５月、天皇皇后の行啓を仰ぎ100周年記念式典を実施。教員はダークスーツで臨むよう指示された。式典終了まで緊張の連日だった。春は高尾山への遠足、夏は鎌倉臨海学園に宿泊、材木座海岸での水泳へと行事は変化していく。11月上野文化会館での連合音楽会では、『交響曲 新世界』の１・２・４楽章を山田先生の指揮で見事に演奏ができた。

６年を迎えた。卒業文集には、今迄の生活の中で特筆したいことを記述するよう念をおした。中学校受験について児童や親の意見をよく聞き、学習に励むよう指導してきた。

その後の４年間はずっと１組だった。１年生の時一人ひとりの記念写真を写したことは、今でも喜ばれている。（２年３年４年については紙面の都合で割愛）

離任式の日、校長室にいたら最後に担任していた児童数十人が泣きながらなだれ込み、番町小にもっといてくれとせがまれた。校長から、「こういう風景はまさに教師冥利に盡きるね」と言われた。二人で「『理想はあくまでも高く、実践は地道に』だね」と語り合い、校舎を見上げながら帰途についた。

「創立120周年」を振り返って

第20代校長　新見　謙太

１．はじめに

同窓会事務局から、在職中に関わった周年記念行事の思い出話の寄稿依頼を受けて、拙宅の小さな書斎で資料を探したら、平成３年12月４日実施の創立120周年記念式典の様子を保護者の方々に伝える「番町だより」（平成４年１月８日付）を見つけました。

この20年前の「番町だより」の紙面の一部に私が書いた小さい記事から、周年行事の主役を担って長期の創作・表現活動を積み重ねた全校児童と、主役たちを導き支え励まし続けた教職員の周年行事を成し終えた喜び・感動・達成感の一端をくみ取って下されば幸いです。以下に、上述の「番町だより」の該当ページを引用・再掲します。

２．「番町だより」より

立派だった主役達

学校長　新　見　謙　太

去る12月４日の本校創立120周年記念式典で、皇太子殿下は子ども達に次のように語りかけられました。

「この長い伝統を有する学校に学ぶ児童の皆さんは、自信と誇りと思いやりの心を持って充実した毎日を過ごしていってください。そして、様々なことに関心を寄せながら、明るい未来へとつながる道を確かな足取りで進んでいかれるよう願ってやみません」

「私は、大学入学以来、交通に関する歴史の研究を続けています。そのきっかけは、小学生のとき、私の住む赤坂御苑の一郭に鎌倉時代の道が通っていたことを示す標識を発見し、道というものに興味を抱いたことにあります。現在でも、そのような関心を育んでくれた小学生時代を、感謝の気持ちとともに懐かしく思い出します」

全児童の代表として式典に参加した５・６年生は、このお言葉に聞き入っていました。とりわけ殿下がご専攻の学問のルーツともいえるご自身の体験を話されたくだりは子ども達の深い感動を呼んだように思います。子ども達の前途や未来とつなげて、殿下の語られた「道」のお言葉は、子ども達の心に深く残ることでしょう。

資料展、作品展、国際理解ルームをご覧いただいた時のにこやかな殿下のお顔が、とても印象的でした。特に、子ども達の作品を、菊池教諭のご説明にうなずかれながら大変楽しそうに鑑賞されました。きっとご自分の小学生時代を思い出されたこととお察しします。

ページェントでは、子ども達の動きの節目で、たくさんの拍手を送ってくださいました。

「鳥にのって」の演奏と合唱が流れた時、「式で歌った歌ですね。子ども達が作詞したのですか、よい歌ですね」とおほめのお言葉をいただきました。

お別れ間際の花束贈呈の場面では、代表の１年生の二人に「ありがとう。しっかりお勉強してください」と話してくださいました。

山地協賛会長さんと東宮御所へお礼のご挨拶に伺った時の樫山侍従長さんのお話では、「お帰りのお車で、殿下と私（侍従長さん）との番町小についてのお話がはずんでいました」とのこと。

本校の子ども全員が当日の主役を立派に果たしてくれたことを、とても嬉しく思います。

３．おわりに

創立120周年を振り返ると、記念事業協賛会の発足（平成２年７月）、愛育会主催の記念バザー（平成３年７月）、記念同窓会総会（平成３年10月）など、数多くの会合や行事を思い出します。

特に藤岡同窓会長さんを初め、幹事の皆様の献身的なお骨折りとご準備のもと開催された記念同窓会総会では、多数の卒業生が集い、番町小でお世話になった先生方を囲む同窓生の歓談の輪が校内に広がりました。校歌の大合唱の伴奏役を務めたＢＪＢの児童達も、先輩方の深い母校愛を感じ取り、番町小の沿革・歴史の道程で継承される伝統の重みを実感したのではないでしょうか。

過日届いた同窓会報第９号で「藤岡元同窓会長を偲ぶ」と題する記事を拝読し、私の在任中、た

記念同窓会総会

びたび校長室を訪ねて励まして下さった故藤岡元会長さんに深い感謝と哀悼の意を表したことを申し添えて、この拙文の筆を擱きます。

「番町ジュニアバンド」誕生の思い出

東京都小学校管楽器研究会理事長
橋本　研

私の教員生活の中で、特に思い出に残る１枚の写真があります。平成元年度の卒業式後、校庭でのＢＪＢの送り出し演奏での一コマ。ＢＪＢ1期生の卒業生が下級生の楽器を借りて演奏に加わりました。みんな泣いています。毎日使ってきた分身のような楽器、そしてバンド仲間との別れを心から惜しんでいるのが伝わってきます。

平成元年６月、ＢＪＢ（番町ジュニアバンド＝金管バンド）が発足しました。番町小では、それまで器楽委員会が行事や式典で歌の伴奏する長い歴史がありました。そんな折、ある児童が「私も一緒に演奏がしたいのです。でも、他の委員会に所属しているので、参加できなくてとても残念です。」と話してくれました。

そこで、「希望者が全員入れる器楽の課外クラブを作りたい。」と考え校長先生にお願いしたところ、「幼稚園の100周年、小学校の120周年の記念式典が間もなくやってきます。よい機会なのでＯＫ、応援します。」という力強い言葉をいただきました。

本格的なブラスバンド（ブラスは金管楽器という意味）への発展を目指すが、とりあえず最初は少人数から始めようと考え、早速団員を募集しました。ところがなんと70名を超すメンバーが集まり、さすが番町小の子ども達は音楽が大好きなんだと驚きました。

足りない楽器をなんとか他校から借り集めBJBがスタート。目標は大きくということで、子ども達に「今年度中に校外の演奏会に出演する。」と宣言し、『継続は力なり』をモットーに始業前30分の練習をコツコツ積み上げていきました。

終業式や始業式・運動会での演奏を経て、翌年２月下旬には目標であった「東京都小学校管楽器演奏会」に参加しました。６年生は、秋の運動会後２月の受験が終わるまでは可能な範囲で出席すればよいという番町小ならではの方法で、他校に比べ圧倒的に練習時間が少なかったのですが、初出演とは思えない堂々とした演奏を披露することができました。

ところで、バンド活動はいつも順風満帆というわけではありません。音楽の技術面や友だち関係などいろいろな困難に出会う中で、学年を越えた多様な性格の子ども達が互いに助け合いながらそれを乗り越えて、音楽的にも人間的にも成長していきます。指揮者カール・ベームは「音楽は友情から生まれる」と言っていますが、一人一人の小さな力を結集して創りあげるＢＪＢの音楽には、大人の演奏にはない「可能性」と「輝き」があります。

誕生して23年、都内でも有数の伝統あるバンドとして、また周年行事での活躍を見てもＢＪＢが番町小になくてはならない存在に育っているのはうれしい限りです。

あらためて私に管楽器指導のきっかけを与えていただいたことに感謝すると同時に、「音楽大好き！」の子ども達を育てるＢＪＢがますます発展することを期待しております。

ＢＪＢは発足から20余年が経ち、昨年の創立140周年記念式典の会場や皇太子殿下をお送りする場面でも演奏しました。その様子は、今回販売する式典ＤＶＤに収録されています。

ＢＪＢ 番町ジュニアバンド

前ＢＪＢ後援会会長　西岡眞理子

ＢＪＢの発足は今から23年前の番町小学校創立120周年の頃ですが、その頃の様子は当時の音楽科教諭 橋本研先生が詳しく書いて下さっていますので省略します。

現在は４年生から６年生まで総勢60名、音楽科教諭 高杉恭代先生ご指導のもと、学校行事での演奏のほか、上智大学、番町こども会、運動会でのマーチング、東京都管楽器演奏会での発表、卒業記念コンサートなど幅広い活躍をしております。練習は、通塾など番町小学校児童の諸事情から、月曜日から金曜日までの朝７時40分から８時10分までの朝練が主です。

現在多くの小学校は金管のみから、クラリネットなど木管も含む音に厚みがある吹奏楽バンドに移行しております。しかし、ＢＪＢは使用期限を過ぎた20年前の楽器を、メンテナンスしながら使用しています。そのため会費のほとんどが古い楽器のメンテナンス代に消えています。

前音楽科教諭 宮下憲一郎先生の時代から活動が熱心となり、卒業後進学した中学高校で吹奏楽を続ける生徒も増え、音大を目指す生徒もおります。音楽科の先生やサポートの先生方には、勤務時間外での朝練はご負担をおかけしております。子供たちの音楽の喜びの芽を大きく育てるために、保護者はもちろんですが、同窓会からもご援助いただければ幸いと思います。

番町子ども会での演奏

同期会・クラス会だより

母校訪問（資料室見学）と同期会開催

三浦　清

母校番町小は、昨年12月４日に20年ぶりで皇太子殿下をお迎えして140周年をお祝いしました。私共昭和14年度の同期会もこれに合わせて11月に予定しましたが、記念式典の前だったため今年５月19日に開催いたしました。

当日はお天気に恵まれ、男女12名が母校に集まりました。中には卒業以来72年ぶりの人もいましたが、卒業時とは異なる現校舎、講堂、教室や職員室の配置などを感慨深く眺めておりました。また、協賛会、同窓会、愛育会の担当者のご努力で整備されてきた資料室を、各人それぞれ熱心に見ておりました。しかし、資料室をさらに充実させるためには、卒業生の皆さんがお持ちの貴重な資料のご提供、貸与をお願いしなければと思いました。

見学後、事務局にお願いして140周年記念式典のＤＶＤを見せて頂きました。機材の不具合で音声がほとんど入りませんでしたが、皆さん最後まで熱心に観てくれました。来賓の挨拶等は聞こえない方がよかったかも？しかし、「皇太子殿下のお言葉」と「児童たちの呼びかけ」は是非聞かせたかった。

次に懇親会ですが、最近は足の悪い方、腰を痛めている方も多いので、番町小からすぐの居酒屋「素材屋」で開きました。男性には当たり前の飲み屋ですが、女性では初めての方が多く心配でした。しかし、料理も雰囲気も好評なので一安心。懇談も結構盛り上がり、会の後半は長塩君が自宅から持参の楽器での演奏サービスもあり、楽しい一時を過ごしました。散会にあたり、従来２年ごとに開催していた同期会を、「元気なうちに会いましょう」を合い言葉に毎年開催に改めましたので、同期の皆さん、来年もよろしく。最後に大変お世話になりました事務局中村さんに厚く御礼申し上げます。

昭和25年度卒の仲間達

長谷川　亮三郎

私達，昭和26（1951）年３月卒業生のクラス会を平成24年７月７日、「がんこ銀座一丁目店」で開催いたしました。

私達は、昭和20（1945）年の終戦の年が小学校入学の年でした。そのため終戦までは米軍の空襲を避けるために、ある者は学童疎開へ、またある者は親戚縁者を頼って東京を離れて行きました。私自身も、番町幼稚園（徳久園長）在籍中に疎開しました。

終戦を迎え番町小学校が再開された時、番町小学校の全校生徒の数は20名ほどだったと伝え聞いています。その時入学した１年生は何名だったのか私にはわかりませんが、その後疎開先から戻ってこられた方や新たに入学した方々で小学６年生は総勢59名（女性25名、男性34名）となり、59名で１クラスでした。その59名を率いて下さったのが恩師、佐藤祐三先生。人間味・温情味のある個性的な先生で、今でもクラス会は、佐藤先生の話で盛り上がります。衣食住に事欠き、また教科書も満足にない戦後の混乱期の中、59名の生徒を預かり大変なご苦労をなさったことと想像しております。

私達は、20年以上前からクラス会をほぼ毎年１回開催しております。今年の出席者は16名（女性５名、男性11名）。毎回20名前後の方が参加しますが、今回は出席の連絡後、急用のため欠席となった方が３名おり、16名となりました。今年は佐藤先生の17回忌にあたり、先生を偲んで中村寿男さんの「献杯」で始まり、私から欠席したクラスの方々の近況報告、続いて出席して頂いた方々自身による近況報告とそれに対する質問、個別の談笑と続き、最後は「創立記念日の歌」を斉唱し、「あっ」と言う間の３時間弱。「年１回とは言わず、今年またやろう！」の声と共に散会となりました。

なお、現在、行方不明の方は女性３名、男性８名。お亡くなりになった方は女性４名、男性５名。ご冥福をお祈りいたします。

昭和28年度卒業生の同期会

平成24年度幹事　荒木　祥行

昭和29（1954）年３月に卒業した私たちの同期会の始まりは古く昭和43年頃で、その後44年間、開催回数も30回弱をかぞえます。

最初のきっかけは「？」ですが、当時麹町、四谷在住の数人が幹事役を引き受けて、住居を移動した人が多かったにもかかわらず住所録等の整備と同期会開催に向けての準備に努力してくれました。卒業以来約15年ぶりに会う人が多く、また27～28歳の多忙な社会人でしたが、多数集まって旧交を温め、今日まで続く同期会の基礎を作ることが出来ました。

その後不定期ですが２～３年おきに開催し、還暦を迎えた10年前からは毎年催すこととして、毎回30～40名の集まりとなっています。

出席くださる恩師は小尾先生お一人となりましたが、私たちも負けそうなくらいお元気で、毎回、私たちが忘れてしまった懐かしい事柄を交えてスピーチをして下さいます。

今年も５月中旬に開催、オーストラリアからの久しぶりの参加者を交え、大いに盛り上がりました。戦後の焼け跡とバラックが周囲に残る昭和23年の入学当時、４年生の12月の昭和天皇をお迎えしての創立80周年記念式典、校舎の地下室探検、四谷土手で夕暮れまで遊んだ思い出等々。私たちは卒業以来58年、日本の復興と高度成長の中を生きてきました。古希を過ぎた今でも旧友たちの笑顔はあの頃と変わらず、近況を語り合い（最近は健康の話題が多くなりました）、昔話に花を咲かせたゆっくりと楽しいひと時でした。昔から、周囲の人たちに羨ましがられる私たちの同期会です。

これからの一年一年を大切に、いつでも、だれもが集える場として、この同期会を少しでも永く続けていけるよう、「また来年」と再会を約して、次の幹事にバトンをタッチしました。

卒業30周年記念同窓会

宇都　健太

平成24年６月９日土曜日、ホテルグランドヒル市ヶ谷にて、昭和56年度卒業生の卒業30周年記念同窓会を開催致しました。

当日は卒業生約70名とともに、恩師である芳川公洋先生、岩上廣志先生、粕谷良雄先生、延時正先生、高野秀子先生、田中美枝子先生の6名の先生方にもご出席いただきました。旧友や先生方との久しぶりの再会でしたが、皆すぐに当時のことを思い出して会話がはずみました。また先生方は私達卒業生のことを本当によく覚えていて下さり、変わらず接して下さいました。そして当時の大変貴重なお話しをして頂きました。各クラスに分かれた近況報告では大変盛り上がり、立派になった旧友の姿を目にして、さすが日本一の番町小学校だ！との思いを皆で共有した次第です。

会の最後には、岩上先生の指揮で、校歌と創立記念日の歌を全員で歌いました。それは懐かしさだけでなく、30年の歳月を経て卒業生がひとつになった夢のような時間であり、目頭を熱くする卒業生が多くみられました。そして全員にとって生涯忘れられない会となり、再会を固く誓い合いました。同窓会の限られた時間では、とても30年間の空白を埋めることはできず、その後神楽坂へと二次会に繰り出し、翌朝まで（？）飲み明かした卒業生もいたようです。

今回、卒後30年の同窓会企画でしたが、転居者が多く、卒業生への連絡が非常に困難でした。そこでFacebookをはじめとしたSNSに登録していた方を中心に、卒業生への連絡を進めました。こうしてメールアドレスや携帯番号を中心に連絡先を蓄積し、事務局にご協力いただいた名簿の住所と合わせ、卒業生全体の80%弱の把握に至りました。しかしいまだ連絡の取れない方がおり、引き続き確認作業中です。

多忙な年代の同窓生が準備のために何度も集まる、というのは今後ますます困難になると思います。しかし、今回SNSを用いた事前打ち合わせのみで、幹事が当日まで一度も会わずに準備できたことは、今後の同窓会・クラス会開催にあたり大きな自信となりました。

最後に、昭和56年度卒業生の卒業30周年記念同窓会開催に当たりまして、中村久美子様はじめ番町小学校同窓会事務局の皆様、番町小学校現職員の皆様、恩師の先生方、ホテルグランドヒル市ヶ谷の皆様、大変お世話になりました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

昭和56年度卒　宇都健太　muto@hij.twmu.ac.jp
昭和56年度卒連絡先　　bancho56@gmail.com

番町子ども会

９月８日（土）午後、「番町子ども会」が開催され、同窓会は在校生との絆を深めるため『駄菓子屋さん』で参加しました。子どもたちはルーレットを回し、出た点数の中で駄菓子を選んでいきます。後輩たちの「有難う！」という一言が嬉しいですね。